

## **39. 香川県土庄町、小豆島町**

# 1. 地域概要

対象地域	香川県小豆郡土庄町・小豆島町			
申請主体	(一社) 小豆島観光協会			
計画名	「観光により持続できる島、小豆島」を実現するための環境整備			
観光客データ		平成31年	令和5年	令和6年
	入込観光客数(千人)	1,153	916	979
	- 国内	988	823	837
	- 訪日外国人旅行者	165	93	142
地域の特徴・観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 日本最初の国立公園寒霞渓を代表とする島固有の独自の生態系を含めた豊かな自然に恵まれている。</li> <li>➢ 高速艇・フェリーが本州や四国と小豆島を結んでいる。最も近い空港である高松空港の国際線旅客数は<b>全国の空港ランキングで9位</b>。</li> <li>➢ 「グリーン・デスティネーションズ」の審査を受け、<b>四国で初めてシルバーアワードを受賞</b>。</li> </ul>			
協議体制	<b>協議の場</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• (一社) 小豆島観光協会が下記参加者が集う協議の場を開き、運営を行う</li> </ul>			
協議体制	<b>参加者</b>			
	<b>行政機関等</b>	<b>有識者</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 土庄町商工観光課</li> <li>• 小豆島町商工観光課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• せとうち観光専門職短期大学石床准教授</li> </ul>		
	<b>事業者</b>	<b>住民関係者</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>• (株) JTB</li> <li>• (株) 霞ヶ関キャピタル</li> <li>• (一社) 小豆島・瀬戸内エリアマネジメント協会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 土庄町自治会連絡協議会</li> <li>• 小豆島町自治連絡協議会</li> </ul>			

## エリアマップ

**2 エンジェルロード**



**10 中山千枚田**



**9 寒霞渓**



瀬の湧ち引きで瀧が流れ、大切な人と手を繋いで麓船の名水を水浴に約800枚の棚田が波形模様渡ると願いが叶うと言われている恋人の聖地に広がり「日本の棚田百選」にも指定されている

日本三大深谷美の1つに数えられ、世界に誇る奥深いロープウェイに乗って深谷の空中散歩もおススメ



**6 道の駅小豆島オリーブ公園**



瀬戸内海を見下ろす小高い丘の上に広がるオリーブ畑と白いギリシャ風車は絶好の撮影スポット

**8 二十四の瞳映画村**



映画「二十四の瞳」ロケセットを改装した拜郷・文学のテーマパーク 芸術祭作品を含むフォトスポット多数

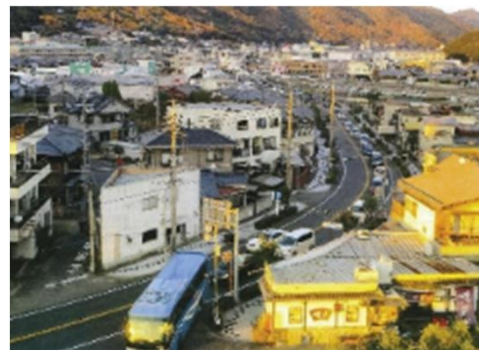
	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. <b>公共交通の混雑</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年は瀬戸内国際芸術祭と大阪・関西万博開催年のため近年最大の来訪者数が想定</li> <li>公共交通の混雑による遅れ、積み残しが想定されるため、代替の交通手段の整備が急務</li> </ul>	住民・観光客
2. <b>道路渋滞・混雑</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道436号線が島唯一の国道であり、繁忙期やイベント時にはレンタカー利用や路線バス・タクシーの集中利用による交通渋滞が発生が想定</li> </ul>	住民・観光客
3. <b>人手不足</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加速する島内の少子高齢化によりバス・タクシーの運転手等の働き手側の不足も大きな課題</li> </ul>	住民・観光客

### 1 公共交通の混雑



繁忙期にはバス待ちの行列ができる  
路線バスは続行便を出して対応

### 2 道路渋滞・混雑



繁忙期には渋滞や混雑が発生する  
繁閑の差が激しい

### 3 人手不足



特にバス運転手が不足している  
大型二種免許取得支援制度を設けるなどバス会社も努力している

### 3. 背景・要因

#### 主な背景・要因

1. **バス便数の減少**
  - ・ 運転手不足のため、バス便が2年で2割以上減少した。
2. **訪日外国人旅行者の増加**
  - ・ 訪日外国人旅行者はコロナ禍を経て急激に回復しており、令和7年は過去最高を記録すると予想されている。訪日外国人旅行者の多くは自家用車、レンタカーを利用しないため路線バスなどが混雑する要因となる。
3. **人気観光地の集中**
  - ・ 小豆島の人気観光地は南側エリアに集中しており、どうしても渋滞・混雑が発生しがちになる。



本事業で土庄港観光センター入口前へ設置したEVモビリティサービス

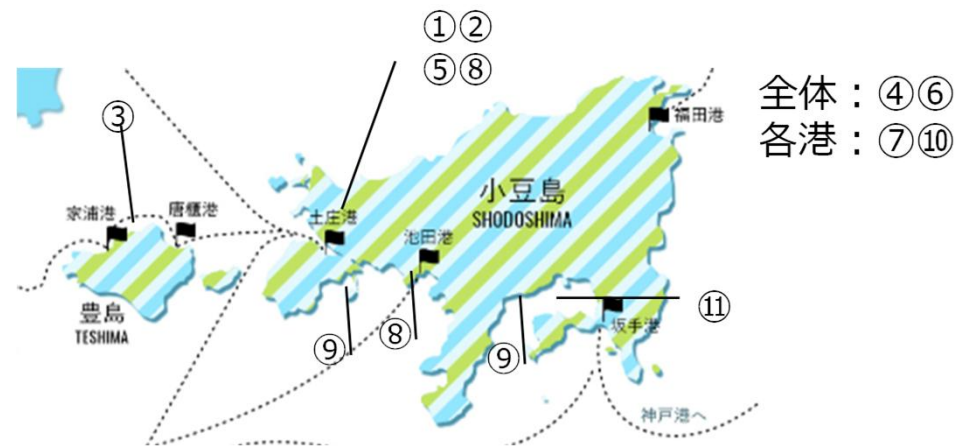
# 4. 対策の概要

目指す姿	観光により消費される島ではなく、観光により持続できる島を目指す
KGI	観光客の受入に関する住民満足度
	目標値：4.0   実績値：3.77(令和6年度)

・ R5補正オーバーツーリズム対策補助事業を補完・発展させる形で、「公共交通機関の混雑」「道路渋滞・混雑」「人手不足」の改善に貢献する

## ■ 補助事業の実施概要

受入環境の整備・増強	
① EVモビリティの導入とシェアリングモデル（無人化）に向けた実証	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通機関が路線バスのみのため、繁忙期に路線バスへの集中・混雑が生じている</li> <li>選択肢の拡大による交通手段の分散化とシェアリングモデル（運営の無人化）に向けた実証を実施</li> </ul>
② 路線バスとシェアサイクルの連動、および豊島へのサービス拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>シェアサイクルだけでは長距離移動が不便なため、帰りは路線バスを使うなど不均衡が生じている</li> <li>シェアサイクルを拡大することにより路線バスとシェアサイクルの相互利用を促進する</li> </ul>
③ 既存の交通手段と融合した観光客向けマルチモーダルサービスの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>シェアサイクルだけでは長距離移動が不便なため、帰りは路線バスを使うなど不均衡が生じている</li> <li>横断的にワンプラットフォームで利用できる小豆島バス（仮称）を開発する。</li> </ul>
④ 土庄港のハブ機能の強化事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>小豆島の玄関口である土庄港だが、情報提供や飲食サービス、近辺への交通に課題が生じている</li> <li>来島者への情報提供や待機中のサービスにより満足度向上を図る</li> </ul>
調査・分析	
⑤ 観光客流動調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで観光客の流動について調査ができておらず、データを基にした施策が行えていない</li> <li>観光客の流動を把握し、需要の平準化を図る</li> </ul>

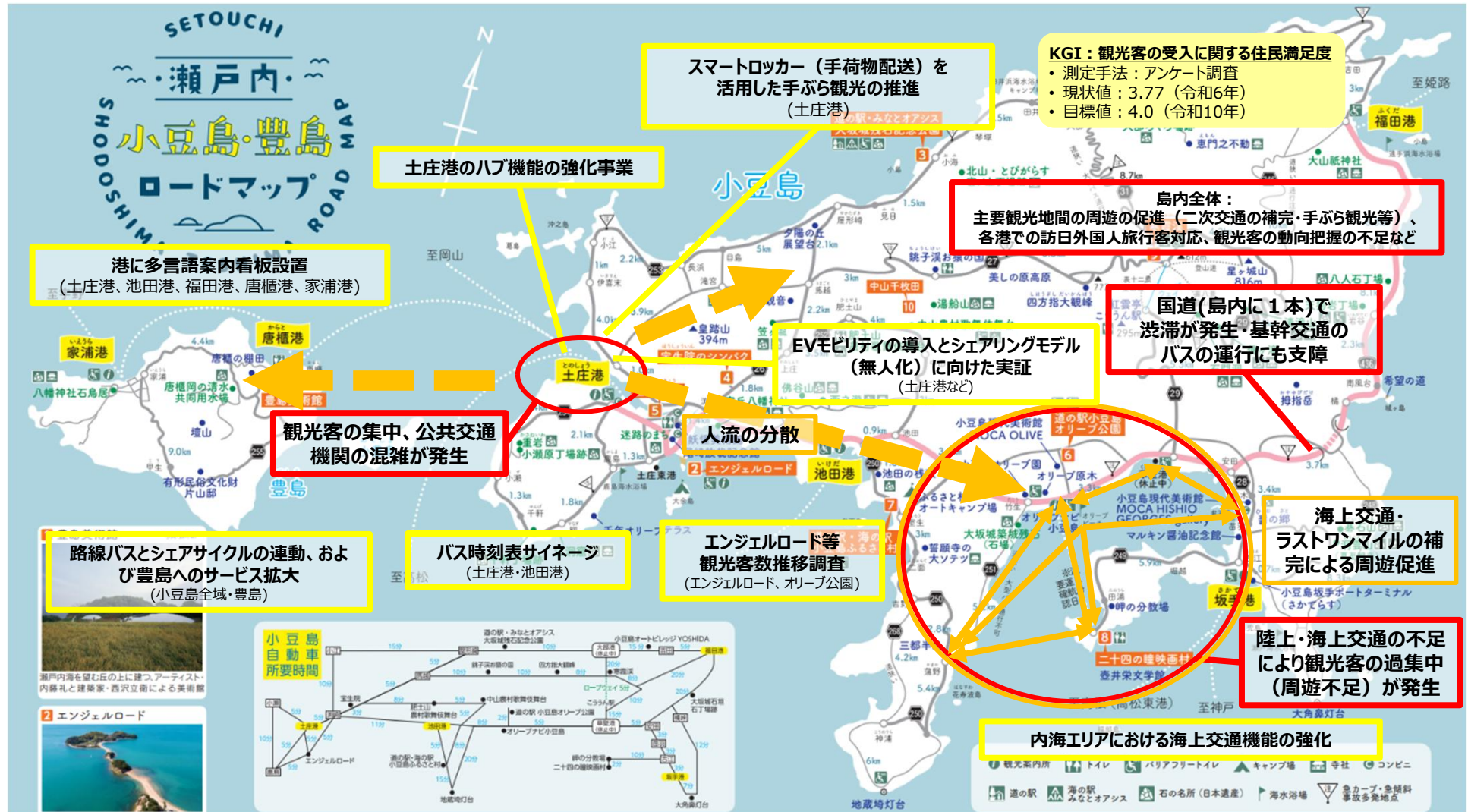


受入環境の整備・増強	
⑥ 港に多言語案内看板設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪日外国人旅行者が港に到着した際に多言語案内が少ないため混乱が生じている</li> <li>訪日外国人旅行者が港でスムーズに移動できるよう多言語案内看板を設置</li> </ul>
⑦ バス時刻表サイネージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪日外国人旅行者がバスに乗車しようとした時にどのバスに乗ればいいのか混乱が生じている</li> <li>訪日外国人旅行者がフェリーからバスにスムーズに乗り換えられるよう多言語サイネージを設置</li> </ul>
⑧ AI通訳サービスの拡充および翻訳履歴を基にしたデータ活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪日外国人旅行者の急増に伴い、案内所での翻訳ニーズが急速に高まっている</li> <li>AI通訳サービスを活用したコミュニケーションによる混雑リスク低減を図る</li> </ul>
⑨ 内海エリアにおける海上交通機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリブ公園バス停では恒常的な行列が生じている</li> <li>二十四の瞳映画村とオリブ公園のオーバーツーリズムの解消を図る</li> </ul>
需要の分散・平準化	
⑩ エンジェルロード等観光客数推移調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>来客数の実数が把握できていなかったため、推測によって将来施策を考える必要があった</li> <li>人気スポット2か所で観光客数と属性を測定、需要予測を行う</li> </ul>

課題

本事業での取組

取組による人の動き



既存の交通手段と融合した観光客向けマルチモーダルサービスの開発  
(小豆島全域)

観光客流動調査  
(小豆島全域)

AI通訳サービスの拡充および翻訳履歴を基にしたデータ活用  
(小豆島全域)

(MAP出典) 一般社団法人小豆島観光協会

受入環境の整備・増強

<b>補助事業①</b>	<b>E Vモビリティの導入とシェアリングモデル（無人化）に向けた実証</b>		
<b>事業目的</b>	交通の選択肢の拡大による交通手段の分散化とシェアリングモデル（運営の無人化）に向けた実証		
<b>実施主体</b>	株式会社 J T B	<b>実施期間</b>	令和7年9月～令和8年2月

**【背景・課題】**

- 島内二次交通として路線バス、タクシーがあるがバス路線は運転手不足もあり減便が続いている。タクシーも台数が限られているため現在はシェアサイクル利用が増えているが、不足感は否めない
- 小豆島の玄関口である土庄港で観光客の移動手段が一部の交通に集中し混雑が発生している
- 土庄港にEVモビリティサービスを導入することで、観光客の短距離移動手段を増やし、観光集中エリアやバス混雑の分散を促進

**【事業内容】**

- EVモビリティ3台を購入し、レンタルを行う
- まずは有人オペレーションによるレンタルモデル運用となるが、将来的にはシェアリングモデル（無人化）への移行を検証していく

**【推進ポイント】**

- 3台の車両をレンタルモデル運用でスタートし、同時にシェアリングモデル（無人化）への移行を検証していく
- 令和7年度のトラックレコードをベースに令和8年度以降車両台数の拡大を検討していく
- 小豆島には港が複数あるので、将来的にはそれぞれの港に配置をし、乗り捨てができるような体制を検討していく



本事業で土庄港観光センター入口前へ設置したEVモビリティサービス

補助事業①

EVモビリティの導入とシェアリングモデル（無人化）に向けた実証

令和7年度事業の目標（KPI）

指標名

EVモビリティレンタルサービスの利用回数

令和7年度に掲げた目標値

- 200回（令和7年度）

事業の成果/目標の検証結果

- 153回（令和7年9月～令和8年2月）

成果の詳細

- 瀬戸内国際芸術祭秋会期および紅葉シーズン(10月57件、11月52件)は利用が集中し、1日あたり平均2台程度の稼働日が多かった。
- ピーク期(10月)の稼働率は61%、期間全体で満車日は22日、予約をお断りしたお客様も多く、実需要に対して供給不足となるケースを確認。
- 国際免許対応後、外国籍利用者は全体の約15%を占め、訪日外国人旅行者需要の取り込みにもつながった。
- 土庄港到着後、路線バスやタクシーに乗れなかった観光客がその場で予約・利用するケースが見られ、交通手段の分散化に寄与した。
- 有人運用からアプリ予約によるシェアリングモデルへ段階的に移行し、無人化運営の実証を進めることができた。
- 港到着後すぐ目に入る配置と、キャッチーな外観・シンプルな操作性、乗り方動画の視聴により心理的ハードルを下げる事ができた。
- 4時間プランが半日観光ニーズに適合し、日帰り客・宿泊客双方に利用された。
- 予備バッテリー搭載により行動範囲が広がり、観光満足度向上につながった。
- 乗車前の安全動画視聴を徹底し、事故抑制に寄与した。

令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 観光客への案内体制の強化

- シェアリングモデル移行期に問い合わせが（本事業を担当していない）土庄港観光センターへ入るケースがあり、観光客へ十分な案内を行えなかった。

2 オールシーズンでの快適な利用に向けた取組

- 冬期は横風や寒さの影響で利用が減少してしまうため、対策が必要となっている。

3 ピーク時需要への対応

- 稼働台数が3台であったため、ピーク時の需要増加への対応には台数拡大の検証が必要。

令和8年度以降の方針

1 観光客への案内方法の改善

- 案内表示・周知方法、スタッフ対応マニュアル作成などさらなる改善が必要。

2 季節要因に対応した車両仕様の検討

- 季節要因への対策（サイドカバー設置等）の検討が必要。

3 複数拠点の確保・乗り捨て利用の促進による利用促進

- 土庄港・池田港・オーブナビ・坂手港の4拠点による乗り捨てモデルを実現し、利用者の利便性を向上し島内回遊を促す。また、複数拠点を確保することで、充電切れによる車両の放置リスクを低減する。

受入環境の整備・増強

補助事業③	既存の交通手段と融合した観光客向けマルチモーダルサービスの開発		
事業目的	多様な交通手段を統合させ、オンライン決済（キャッシュレス化）により利便性を向上と窓口での混雑緩和を図る		
実施主体	株式会社 J T B	実施期間	令和7年9月～令和8年2月
<p><b>【背景・課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の公共交通を乗り継ぐ際のチケット購入手段のわかりにくさ、港やバス停での混雑・現金精算の不便さ</li> <li>多様な交通手段を統合させ、オンライン決済により利便性を向上させ、 並ばなくてもキャッシュレスでチケットが購入・利用できることを実現することで、窓口での混雑を未然に防ぐ</li> </ul> <p><b>【事業内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小豆島内の主要な交通手段を横断的にワンプラットフォームで利用できる「小豆島PASS」を開発</li> <li>小豆島オーリーブス1日乗車券を軸に、オプションとして小豆島への全てのフェリーチケットをデジタル化し、島外から小豆島への移動、島内の移動をサポート。</li> <li>ポスター、リーフレット、WEB広告を通して小豆島の魅力を伝え観光振興に寄与</li> </ul> <p><b>【推進ポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最終的には実装を想定しているが、本格的な実装に入る前に、9月～2月の期間で実証を行う。</li> <li>実証の運用実績（利用者データ・移動データ・利用データ等）を分析した上で、企画を調整の上実装する。</li> </ul>			

**補助事業③ 既存の交通手段と融合した観光客向けマルチモーダルサービスの開発**

**令和7年度事業の目標 (KPI)**

<b>指標名</b>	電子チケット「小豆島PASS」の利用回数		
<b>令和7年度に掲げた目標値</b>		<b>事業の成果/目標の検証結果</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>1,000回</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>191回 (令和7年9月～令和8年2月)</li> </ul>	

**成果の詳細**

- 利用回数は191回 (目標1000に対して未達) に留まった。
- 小豆島オーリーブス1日乗車券を中心としたチケット構成としたが、バス以外のオプションチケット (フェリー、シェアサイクル) の利用は需要が広がらなかった。
- 瀬戸内芸術祭の時期には、利用者が増加したが、紅葉シーズン以降のシーズンオフには利用が伸び悩んだ。



**令和7年度事業を踏まえた継続課題**

**商品設計の分かりにくさ、オペレーション面の煩雑さ**

- チケット構成や選択肢が多く、初見の利用者にとって分かりにくい面があった。
- WEBチケット購入後もフェリー乗船時に窓口で紙への引き換えが必要な運用に対して不満の声が複数あった。

**令和8年度以降の方針**

**商品設計の再構築、簡潔なオペレーションへの改善**

- 商品設計の簡素化やプランの整理が必要。また、スマートフォン画面提示のみで乗船可能とする現場オペレーションへの移行が急務。
- 商品設計の再構築と、スマホ提示のみで完結する乗船オペレーションへの移行を進め、実装フェーズへの本格展開を目指す。

受入環境の整備・増強

補助事業⑤	観光客流動調査		
事業目的	観光客の流動を把握し、需要の平準化を図る		
実施主体	一般社団法人小豆島観光協会	実施期間	令和7年9月～令和8年2月

【背景・課題】

- これまで島内の詳細な流動調査は実施されることがなく、観光客がどの港から入ってどの観光地に立ち寄り、どの港から出ていったかが不明だった

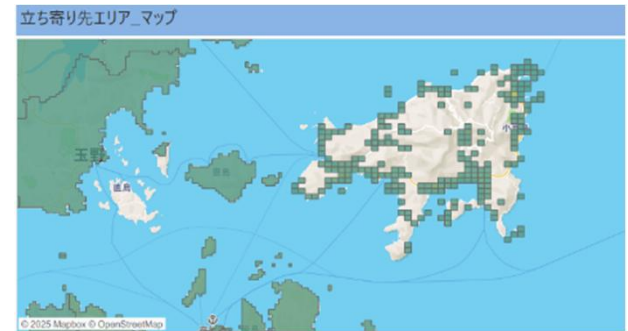
【事業内容】

- 主に以下の3つの観点で調査する
  - どの港から入ってどの港から出たか
  - 島内観光地のどこに行ったか、どこが人気か
  - 観光客がどういうルートで島内を移動しているか

【推進ポイント】

- 観光客の流動を把握したうえで、観光協会HPにて
  - モデルコースを改良し、港の使い分けを推奨
  - 島内の効率的な移動方法をレコメンド
  - まだ知られていない観光地を紹介
- 令和8年度以降には混雑緩和対策などよりきめ細やかな交通施策に反映

上：福田港  
 下：土庄港  
 使う港によって近隣（豊島・高松市）への立ち寄り頻度が大きく異なる  
 （土庄港の画像では、豊島・高松市が黄色、赤色に表示されており、両地域への立ち寄り頻度が大きいことが示されている）



補助事業⑤ 観光客動向調査

### 令和7年度事業の目標 (KPI)

**指標名** 観光地集中度 (主要 4 観光地 (※) の訪問割合を算出し、それを集中度とする) (※) 寒霞渓、オリーブ講演、エンジェルロード、映画村

#### 令和7年度に掲げた目標値

- 集中度 2 ポイント改善 (年度内)

#### 事業の成果/目標の検証結果

- 集中度 6.68 ポイント改善 (令和7年11月～令和7年12月)

### 成果の詳細

- 無料の観光地が多いため、これまでわかりづらかった観光地ごとのリアルな集客状況 (国内観光客のみ) が明確になった。
- 全体の 2 割強が異なる港を使っていることが初めて分かった。(想定よりもかなり多かった。)
- 人気観光地の集客状況を始めて横並びで比較でき、季節ごとの動向も分かった。
- 北部にある福田港の利用者は他港利用者と比べ北部地域へも足を運んでおり、福田港の促進が北部観光振興に効果的だと分かった。
- 2 割強の観光客が行きと帰りで港が異なるため、それを前提にした施策 (レンタカー乗り捨て推進、手ぶら観光の推進) が必要だと分かった。
- 経路についても調査したが、観光地によって経路が異なることはあまりなかった。
- これらのデータを基にこれまであまり取り上げられていなかった北部を中心とした冬のモデルコースを提案した。



モデルコース (小豆島観光協会HPにて掲載)

### 令和7年度事業を踏まえた継続課題

#### 訪日外国人旅行者の動向把握

- 予算の関係で国内観光客のみの調査となったため、訪日外国人旅行者の動向については不明のままとなっている

### 令和8年度以降の方針

#### コストを抑えた人流データの取得方法の検討

- 今回のような形でデータを毎年購入するのは費用面で難易度が高い。
- 何らかの形で流動データは継続的に取得したいので、もう少し安価に入手できる方法を検討する。

## 4. 対策の概要

- ピーク時にはフェリー1便で500名程度の観光客が来島するが、二次交通が不十分なため、バスなどの島内交通で混雑が発生している。また、観光地と生活エリアが密接している場所では、観光客のマナー違反によるトラブルが生じている。
- 小豆島全体を包含する観光ビジョンの策定に際し、交通・旅館・観光施設などの観光事業者のほか、大学なども参加し、島内観光が直面する課題を話し合った。
- 小豆島観光協会では毎月会長、副会長、土庄町・小豆島町の商工観光課課長が集まり、観光施策について議論している。その中で上記オーバーツーリズムに関する課題について対策を取る必要があるとの認識に至り、両町の自治会とも相談の上で本事業の実施決定に至った。



## 観光客の分散・平準化

- |            |   |
|------------|---|
| <b>取組み</b> | ①エンジェルロード駐車場整備・有料化  |
| <b>背景</b>  | ・ 無料駐車場に観光客が長時間滞留、周辺道路の渋滞等を引き起こしている                                   |
| <b>内容</b>  | ・ 駐車場を有料化し、駐車場利用時間の短縮・周辺道路の混雑緩和並びに、駐車場事業で得た収益の町内オーバーツーリズム対策事業への還元を目指す |
| <b>取組み</b> | ②バスロケーションシステム導入   |
| <b>背景</b>  | ・ ピーク時に観光地周辺のバスが混雑し、島民が乗れない事態が起きている                                   |
| <b>内容</b>  | ・ バスの遅延・増便情報を観光客に提供し、バスの利用時間やルートの調整を促し、バス混雑の減少を図る                     |
| <b>取組み</b> | ③タクシー配車予約システム導入（小豆島全域）  |
| <b>背景</b>  | ・ 予約方法が電話に限られており、配車効率が悪い  |
| <b>内容</b>  | ・ インターネット予約方法の確立、空車台数等見える化により、配車効率化を図る                                |

## 受入環境の整備・増強

- |            |  |
|------------|--|
| <b>取組み</b> | ④モビリティ等車両導入（坂手港）                                     |
| <b>背景</b>  | ・ 島内全体で二次交通の供給が不足している                                |
| <b>内容</b>  | ・ 次世代自動車やEVバイク等のモビリティレンタル事業で二次交通の選択肢を増やし、バスの混雑緩和に繋げる |

## マナー啓発

- |            |   |
|------------|---|
| <b>取組み</b> | ⑤スマートフォンによる多言語情報提供（小豆島全域）   |
| <b>取組み</b> | ⑥多言語案内啓発看板設置 島内10か所（赤★ 中山千枚田、大坂城残石記念公園、寒霞渓山頂、エンジェルロード、道の駅小豆島オーリーブ公園、醬の郷、二十四の瞳映画村、小豆島ふるさと村、宝生院、土洩海峡） |
| <b>取組み</b> | ⑦ごみ箱設置（青★ 中山千枚田、大坂城残石記念公園）  |
| <b>背景</b>  | ・ 観光地と島民の生活エリアが近接する小豆島では、生活空間への観光客立ち入りや、ごみのポイ捨てによる生活環境の悪化が起きている                                     |
| <b>内容</b>  | ・ 案内看板とスマホによる情報提供により、観光客の立ち入り可能地域を明確化・マナー啓発による住民トラブルの未然防止を図る  |

## 5-①. 主な取組み（詳細）

### 課題

- 主要観光地エンジェルロードの、駐車場周辺における道路渋滞

### 取組み

#### エンジェルロード駐車場整備・有料化

- 実施期間：令和7年2月
- 実施主体：土庄町

### 事業内容

#### ■ エンジェルロード駐車場整備・有料化

- エンジェルロード駐車場を整備し、有料化する
- エンジェルロードから徒歩5分の第2駐車場は無料のままとする

#### 【背景】

- 無料であるため観光客が長時間滞留し、周辺道路の渋滞や観光客の満足度の低下が起きている
- 瀬戸内国際芸術祭開催などの影響もあり、令和元年度には推定来訪者数が30万人を超え、繁忙期の混雑が顕著になったことから、有料化について検討を行ってきた
- 島内路線バスやまちなか周遊ルートなど複合的な検討が必要であることや、島内観光地に有料の事例がなかったことなどから、具体化に至らなかった
- 観光ビジョン策定に至るワーキンググループ等の課題検証において、持続可能な観光に資するために、二次交通の強化や観光客増加による生活環境への悪影響などが挙げられ、混雑・マナー違反对策や次世代につなげていくための財源確保策として、事業立案につながった

#### 【目的】

- 有料化により、駐車場利用時間の短縮・周辺道路の混雑緩和につなげ、また、小豆島全体で持続可能な観光への取組みの一つとして、駐車場事業で得た収益を対策費に充当す形でへの還元を目指す
- 第2駐車場は無料とすることで混雑の分散を図る。隣接する迷路のまちエリアや土洩海峡などの観光地への誘客にもつなげる

区分		使用時間	使用料 (1区画)
8:00～ 18:00	普通車用	30分以内	300円
		30分を超え30分ごと	100円
	大型車用	60分以内	2,000円
		60分を超え30分ごと	1,000円
18:00～ 翌8:00	全区画	無料	



エンジェルロード駐車場から伸びる道路の混雑状況



繁忙期（GW）の混雑状況



繁忙期（お盆）の混雑状況

## 5-①. 主な取組み（詳細）

## 事業内容

## 【周辺図】



出典：国土地理院の地図データを加工して作成

## 5-①. 成果及び今後に向けて

## 令和6年度事業の目標

- ・ 駐車場有料化による、駐車場回転率の向上及び周辺道路の混雑緩和

## 事業の成果／目標の検証結果

- ・ 駐車場の回転率が向上し、混雑が緩和した※( )は計測時期
  - ▶ 1台あたり駐車場滞在時間: **29.5分**(R6.8)→**24分**(R7.2)に減少  
(**19%減**)
  - ▶ 周辺道路通過の所要時間: **4分55秒**(R6.8)→**4分17秒**(R7.2)に減少  
(**13%減**)

## 成果詳細



有料化後の駐車場



満空情報の掲示

## 【成果】

- ・ 駐車場の回転率向上
- ・ 周辺道路の混雑緩和
- ・ 継続的な町の収益確保

## 【副次的な効果】

駐車場に配置する誘導員について、従来5人体制だったところ、2人体制で対応できるようになるなど人員不足の解決にも寄与

## 【有料化による収益】

駐車場追加や警備員費などの対策費用に活用していく

## 令和6年度取り組みから見てきた課題

## ■ 増加する訪日外国人旅行者の利便性向上

- ・ 現状、駐車場に関する看板や支払い方法等のインストラクションが日本語のみとなっている
- ・ 訪日外国人旅行者が車で島内を移動するケースも増加しており、訪日外国人旅行者対応が必要

## 令和7年度以降に取り組むべきと考えること

## ■ 多言語対応や支払い方法の多様化

- ・ 駐車場の使用状況やニーズを把握した上で、必要に応じ、精算機の使い方など多言語化の対応をしていく

## 5-②. 主な取組み（詳細）

## 課題

- 島内二次交通の供給が不足している

## 取組み

## モビリティ等車両導入（坂手港）

- 実施期間：令和7年2月
- 実施主体：小豆島町

## 事業内容

## ■ モビリティ等車両導入

- 小豆島町が次世代自動車やEVバイク等のモビリティを購入
- 民間事業者にて、観光客向けモビリティレンタル事業を実施

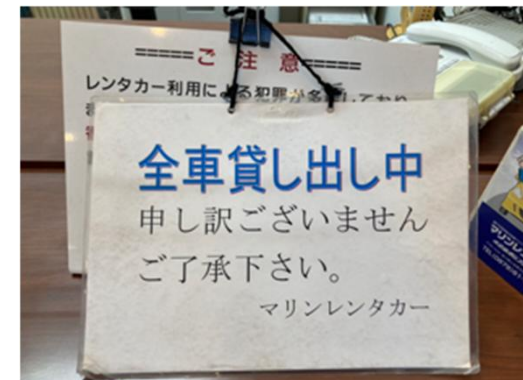
## 【背景】

- 小豆島では、二次交通の供給量と手段の種類が限られている
- 町民・観光客共にバスへの依存度が高く、バスの利用集中によるバス内の混雑が深刻である
- バス以外の二次交通の手段として、レンタカーが有効であるが、特に繁忙期は供給が不足し、観光客の利用が確保できない状況
- 小豆島は繁忙期と閑散期で来訪者数の変動が大きい為、民間のレンタカー事業者にとって、繁忙期に合わせた設備投資は現実的ではない
- 観光需要の変動に柔軟に対応するため、町が車両を購入することで、閑散期は町で利用、繁忙期は民間に無料貸与し供給力を補完する方針となった

## 【目的】

- 二次交通の選択肢を増やすことで、観光客の利便性向上と既存の島内交通手段（バス）への一極集中を緩和する

## 繁忙期にはすぐに満車になるレンタカー



## 観光需要の変動に応じたレンタル車両の管理



## 5-②. 成果及び今後に向けて

## 令和6年度事業の目標

- 自動車・EVバイク等のレンタルを行い、島内二次交通の選択肢を増やす

## 事業の成果／目標の検証結果

- 車両の導入は完了したが、観光客の利用はこれからとなる
- 大型連休等の多客期や、瀬戸内国際芸術祭開催時期等の多客期に、島内の二次交通として有効な手段となるよう、取組み・検証を行う

## 成果詳細



自動車PHEV 1台とEVバイク9台を導入

## 他事業におけるモビリティの増強

小豆島における一般型採択のシェアサイクル事業とあわせ、島内における観光客のモビリティへのアクセスは向上した。

- シェアサイクル 160台導入
- サイクルポート 10か所増設（計42か所）

事業名：「自律運航船（無人運航ボート）とシェアサイクルを組み合わせた新しい島の周遊モデル」

## 令和6年度取組みから見えてきた課題

## ■ モビリティのレンタル利用促進

- 島内の移動手段として、知らないと利用してもらえない。観光客が島内移動手段を検討するモーメントを捉え、適切な場所で周知する必要がある

## 令和7年度以降に取り組むべきと考えること

## ■ 関係者と連携した旅行前・旅行中のPR強化

- 観光協会や町のホームページによる周知、観光導線上にある坂手ターミナルやジャンボフェリー内での周知を行い、既存の二次交通バスからの分散を促す

## 現状について

- 令和7年度は、地域一体型として事業を実施。